

障害基礎年金停止・減額

自立心くじく恐れ

解説

4日明らかになった。かつて1・3倍近く増えた障害基礎年金の停止・減額問題をめぐって、初めて支給を申請した人についても、認められない割合が2010年度から12年度にかけて1・3倍近く増えている。日本年金機構は、なかなか支給や停止、減額が増えているのか説明できていない。

年金が支給されるべき人に支給されないのはもちろん問題だが、既に受け取っている人が停止や減額となると生活に与える影響は格段に大きい。

障害者は最低賃金が適用される仕事に就いていても、月10万円程度の給与のことが多い。福祉的就労である作業所の場合、工賃は月1万円〜2万円程度だ。その中で月約6万円〜8万円の年金が止められたらどうなるか。何の前触れもなく「停止しました」といった通知が届き、理由の説明はないに等しい。

自立を願う障害者は多い。障害年金はその基礎となるものだ。暮らしの支えが突然失われたら、自立の心をくじいてしまいかねない。年金機構の現場の担当者には障害者の生活実態に対する想像力が求められる。

突然の停止納得いかず理由説明なく



障害年金停止に対する不服申し立ての棄却文書を見つめる広島市の男性。2014年9月、東京都千代田区

生活の糧である障害年金が突然、打ち切られたり減らされたりする例が増えていることが分かった。働く障害者が増えてきたとはいえ、少ない収入で暮らす人がまた多いため、多くの人が納得できない。理由の説明がなく、多くの人が納得できない。気持ちは抱えている。

「障害の状態が、年金を受け取れる程度ではなくなったため、年金の支払いを停止しました」

広島市の男性(60)の自宅に突然、こんな通知が郵送されてきたのは2013年12月のことだ。男性はパーキンソン病で左半身を動かすのが不自由になり、11年から3級の障害厚生年金を月額約6万7千円受け取っていた。妻の副作用で障害ははや悪化したように感じていたが、更新によって支給を止めら

れた。日本年金機構の都道府県事務センターごとに審査される障害基礎年金と違って、障害厚生年金の場合は機構本部が一括で審査する。だが支給を絞る傾向は同じで、減額された人だけでもその割合は10年度の1・7%が12年度には2・2%、13年度(14年1月末現在)は1・9%と少し下がったものの、増加気味だ。

男性は機構の出生機関である年金事務所に停止の理由を問い合わせたが、満足な回答を得られなかった。不服を申し立て、審査委員は「そう断は適正だったのか。男性は今も依然として、一層家で会社を辞めた私のような人間にとっては、障害年金はとて大切。そういうことが分かっているのではないか」

得られない。不服を申し立て、厚生労働省に置かれる社会保障審査会まで争った。

ようやく理由が明らかになったのは、申し立てから9カ月後、審査会の席上だった。厚生労働省が支給基準について詳しく説明すると、審査委員は「そういう説明を本人に(もっと早く)伝えるべきだ」と苦言を呈した。

不服申し立ては棄却されたが、男性は14年5月に障害年金を再び請求したところ、認められた。支給停止の判断は適正だったのか。男性は今も依然として、一層家で会社を辞めた私のような人間にとっては、障害年金はとて大切。そういうことが分かっているのではないか」



和歌山電鉄の真志駅で開かれた就任8周年を祝う式典で、ファンらに囲まれる「たま」駅長(右)。左は部下の「ニタマ」=4日午前、和歌山県紀の川市

たま駅長8周年祝い

和歌山電鉄 基金総裁にも就任
三毛猫の「たま」が 電鉄貫志川線の真志駅 駅長を務める和歌山 (和歌山県紀の川市) で4日、就任8周年

た。人と動物それぞれが互いの拠地を敵った際に表彰するための基金を創設し、これまでの出版物収入や小嶋光信社長の出資計1千万円を充てることも発表され、たまが総裁に就任した。

たまはファンら約300人に囲まれる中、辞令を交付されると何度も「ニャー」と元気な鳴き声。小嶋社長は「動物との共生社会をアピールしたい」とあいさつした。

表彰は2部門に分かれ、全国を対象にした最高位「総裁賞」には、ネコの鳴き声「にゃんにゃん」にちなみ2万円が贈られる。